

- 1 課題名 沿岸性高級魚の増養殖技術の開発
- 2 区分 県単
- 3 期間 平成21年度
- 4 担当 増養殖部(濱地寿生・井川拓也)
- 5 目的

文 献

- 1) 南 友樹, 坂本博規, 定着性魚類増養殖技術の開発, 平成19年度事報 2009 ; 27

沿岸性高級魚であるカサゴについて、これまで種苗量産技術や標識の開発および放流効果把握のため標識放流を実施している¹⁾。今年度は平成19、20年度に串本町津荷地先に標識放流を行った群を対象に釣獲や市場での漁獲物調査を実施した。

表1 串本町津荷地先におけるカサゴ放流状況

放流年月日	放流数 (個体)	平均全長 (mm)	標識種類
H19.7.26	6,750	80.6±4.3	左腹鰭抜去
H20.6.17	10,000	74.8±5.1	右腹鰭抜去

6 成果の要約

1) 試験方法

(1) 標識放流

放流は表1に示すとおり、平成19年7月26日に左腹鰭を抜去した6,750個体(平均全長80.6mm±4.25)、平成20年6月17日に右腹鰭を抜去した10,000個体(平均全長74.8mm±5.05)を串本町津荷地先に放流した。

(2) 釣獲調査

釣獲調査は、針数94~132個の延縄5鉢を用い、放流場所近辺で実施した。カサゴは、腹鰭の有無によって標識魚を識別するとともに胃内容物や生殖腺等の観察を行い、生物情報も収集した。

(3) 漁獲物調査

和歌山東漁業協同組合串本支所に水揚げされたカサゴの腹鰭を確認し、標識魚を識別するとともに混獲率を調査した。また、測定カードを用いて全長の測定を行った。

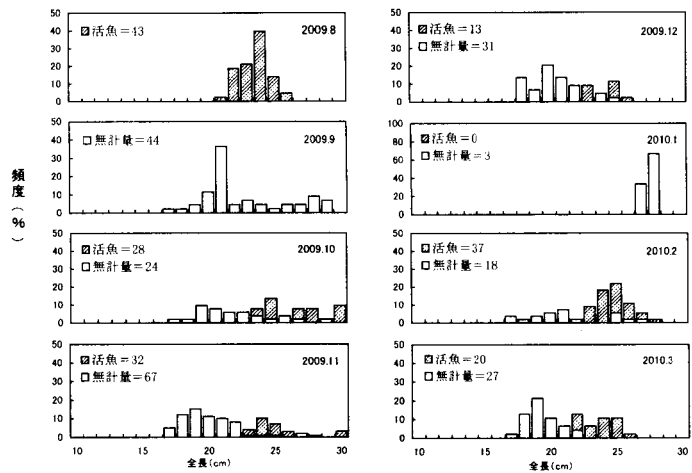


図1 和歌山東漁業協同組合串本支所市場におけるカサゴの全長組織の推移

2) 成果の概要

(1) 釣獲調査

調査は4月~1月に計7回実施し、全長13.0~29.7cm(平均全長21.4cm)のカサゴ138尾を釣獲したが、全ての個体の腹鰭は正常であり標識魚はみられなかった。釣獲魚の大半は4歳であり、標識魚に該当する2歳未満の個体は僅かであった。また、調査期間を通し甲殻類を摂餌していること、生殖腺の発達状況から11月には交尾がおこなわれていることが窺われた。

(2) 漁獲物調査

8月~3月まで月1回の頻度で調査を行い、全長16.9~29.2cm(平均全長22.5cm)のカサゴ387尾、全長未測定27尾の合計414尾の腹鰭を確認したが標識魚はみられなかった。なお、和歌山東漁業協同組合串本支所市場では生きている比較的大きいサイズは活魚として重量を計数後販売され、生きていても小型や斃死個体は無計量で扱われていた。

7 成果の取り扱い

(1) 成果の普及

関係漁業関係者に随時調査結果の説明を行った。

(2)

特になし